

生命科学・医学系研究実施のお知らせ

東京慈恵会医科大学倫理委員会の審査を受け、以下の研究を実施しております。

本研究に関する内容の詳細等、お知りになりたい方は下記【問い合わせ先】までご連絡ください。なお、試料・情報が本研究に用いられることについて、研究の対象となる方（もしくは代理人の方）にご了承いただけない場合は研究対象から除外いたしますので、下記【問い合わせ先】までお申し出ください。

【研究課題名】	急性期病院における緩和ケア外来初診患者のアドバンス・ケア・プランニングの準備性に関連する要因の検討		
1. 研究の目的と方法	本研究の目的は、緩和ケア外来を初めて受診された患者様の診療録および看護記録から、アドバンス・ケア・プランニング（以下 ACP）の準備性に関連する記述を抽出し、その準備性に影響する要因を明らかにすることです。これにより、人生の最終段階に向かう患者様に対して、外来でより適切な ACP 支援を行うための示唆を得ることを目的としています。本研究で得られた知見は、生活のしやすさに関する質問票の見直しや、外来における ACP 支援の充実、意思決定支援の質の向上に役立てられます。 「アドバンス・ケア・プランニング」とは、必要に応じて信頼関係のある医療・ケアチーム等の支援を受けながら、本人が現在の健康状態や生き方、さらには今後受けたい医療・ケアについて考え（将来の心づもりをして）家族等と話し合うことです。		
2. 研究期間	倫理委員会承認日～2028年3月31日まで、研究の実施を予定しています。		
3. 対象となる方等	2025年10月1日～2026年5月31日の間に当院の緩和ケア外来を初めて受診し、診察時に「生活のしやすさに関する質問票」をご提出いただいた患者様を対象としております。		
4. 研究に利用する試料・情報について	(1) 試料の種類	試料は使用しません。	
	(2) 試料の取得の方法	試料は使用しないため、該当しません。	
	(3) 情報の種類	病名・病期、年齢、病状・予後・今後起こりうることの説明の有無、介護度、世帯構成、介護・看取り経験、価値観（大切にしたいこと）、ACP について考えた経験、ACP の家族との話し合い経験、ACP の文書化、宗教、がん相談室利用、サポートセット配布	
	(4) 情報の取得の方法	緩和ケア外来初診時の診療記録と看護記録、生活のしやすさに関する質問票からデータを収集します。	
5. 研究の実施体制	あなたの試料・情報は、以下の研究者が研究のために利用します。 試料・情報は、(3)の管理責任者が責任をもって、保管・管理します。		
	(1) 当施設の 研究責任者 または研究 代表者	研究機関名	東京慈恵会医科大学西部医療センター
		氏名	角田真由美
	(2) 当施設の長	東京慈恵会医科大学 学長 松藤千弥	
(3) 当施設の 試料・情報の 管理責任者	(1)の研究責任者と同じ		

	(4) 共同で研究を実施する施設とその責任者	この研究では共同で研究を実施する機関はありません。
6. 試料・情報を他機関とやり取りすることについて	この研究では、外部の機関と試料・情報をやり取りすることはありません。 情報の利用開始予定日：2026年9月頃～	
【問い合わせ先】	機関名：東京慈恵会医科大学西部医療センター看護部 研究責任者：看護師 角田真由美（かくた まゆみ） 電話番号：03 - 3084-1151（内線 3501） 対応時間：平日 9：00～17：00	

※利用する情報等からは、お名前、住所、電話番号、カルテ番号など、個人を特定できる情報は削除いたします。
研究成果を学会や論文で発表する際も個人が特定できる情報は利用いたしません。